

自然の中でひと息つく場所 CAFE HITOASHI

神奈川県・愛川町。
どこか時間の流れがゆっくりになるような場所に
CAFE HITOASHI はあります。

板張りの外壁に、水色のドア。
その佇まいは、周囲の自然と静かに調和しながら、
訪れる人をそっと迎え入れてくれるようです。

店内でいただけるのは、
フレンチのパティシエがつくる季節のパフェ。
旬の果物やチョコレートを重ねながら、
「最後まで飽きずに楽しんでほしい」という思いが
食感や色彩の変化として丁寧に仕込まれています。

窓の外には、中津川の流れ。
水音と光の揺らぎが、
パフェの甘さと思議なほどよく合うのです。

オーナーがこの場所を選んだ理由は、
“手つかずの自然に心を動かされたから”。
川が流れ、山が迫り、
ここにしかない景色が広がっていたといいます。

築50年の民家を骨組みだけ残して改装した店内は、
どこか懐かしく、でも新しい空気が流れていて、
“暮らしの余白”のような心地よさがあります。

自然のそばで、季節を感じながらひと息つく時間。
それは、
住まいづくりにも通じる、大切な感覚なのかもしれません。



エントランス



旬のいちごのパフェ

新しい住まいの選び方 「中古を買ってリノベーション」

物件探しと住まいづくりを同時に考える
「中古を買ってリノベーション」。
立地や間取りにこだわりたいけれど新築は予算的に難しい。
そんな方にぴったりの選択肢です。

●「物件探し」から「暮らし探し」へ
多くの人は物件の条件から住まい探しを始めますが、
本当に大切なのは「どんな環境でどんな毎日を送りたいか」
という暮らしの質です。
中古物件をリノベーションすることで、立地や間取り、
予算配分、デザインの方向性を「暮らしの完成形」から
逆算して考えることができます。

こんな方に
おすすめ

- ・立地も間取りも“ちょうどいい”を求めたい人
- ・新築は高いけど、妥協したくない人
- ・物件探しに疲れている人
- ・「どう暮らしたいか」から考えたい人
- ・センスの良いプロに伴走してほしい人

これらのニーズを持つ方々にとって、
私たちの“空間提案力”は非常に相性が良いと言えます。

✿ ご相談いただいた方に『リノベーション実例集』差し上げます。 ✿

発行：株式会社マルナカホーム リノベーション事業部
〒223-0057 横浜市港北区新羽町 896
free / 0120 28 45 28

© 2026 Marunaka Home Inc.



お問い合わせ



Home page



Instagram works



YouTube

本誌は、これまでご挨拶をさせていただいた皆さまとのお縁を大切にお届けしています。

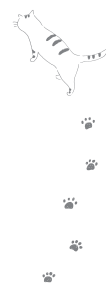
Fika

住まいと暮らしの小さなワクワクを私たちの視点でそっとお届けします



marunaka home
no'clock

＊あなたのお住まいで気に入りの場所はどこですか



フレキシブルリビングで暮らしを豊かに

窓辺に一步近づくと、そこには太陽の光を全身で感じられる特別なスペースが広がっています。

毎日表情を変える雄大な空や季節のうつろいを間近に眺めながら、光と風を贅沢に招き入れるLDK。

そして、窓から眺める風景は、時の流れを穏やかに感じさせてくれる至福の景色です。

今回の住まいづくりで大切にしたのは、従来の形にとられない自由な暮らし方。

LDKの中心には、向きを自由に換えられるフリースタイルのアイランドソファを配置しました。

気分に合わせて景色を眺めたり、家族と対話したり、リビングのあり方を変化させることができます。



- # マンションリノベ
- # 回遊する動線
- # 花ブロック
- # PH5
- # がんこおやじの椅子
- # スピーカーダウンライト
- # 雄大な空の表情を眺める
- # つくる楽しみ食べる喜び
- # 外なのか内なのか
- # 影が主役
- # カームダウン
- # アルネヤコブセン



劇的なビフォーアフターに加え、普段は見られない、貴重な解体工事の裏側までたっぷり収めた12分間のドキュメンタリー映像を公開中！理想の住まいがゼロから形作られていくプロセスをお楽しみいただけます。



動画



外でもない、内でもない、中間エリアとして設けたインナーテラスは、暮らしに心地よいゆとりをもたらす仕掛け。お気に入りのカフェテーブルを置いて、流れる雲を眺めながらFika（コーヒータイム）を楽しみます。



ベッドルームにはカームダウンスペース（calm down: 気分や感情を落ち着かせる）を設けました。日常の中にある贅沢で豊かな時間が、ここには流れています。

☕ Fika Column

北欧 × 光 × 暮らし

光のかたちが変わると、暮らしの表情も変わる。ポール・ヘニングセンが教えてくれる、やさしい明かりの話。

北欧の暮らしに惹かれる理由を考えると、そこにはいつも“光”の存在があるように思います。冬が長く日照時間の短い北欧では、家の中で過ごす時間が大切にされてきました。だからこそ照明は、ただ明るくするための道具ではなく、「暮らしの質を整えるための文化」として育まれてきたのだと思います。

その思想を形にしたのが、“近代照明の父” ポール・ヘニングセンです。彼はまぶしさを抑え、光をやわらかく反射させることで、人にも空間にもやさしい光を生み出しました。光源が直接目に入らず、空間にやわらかな陰影が生まれ、暮らしの時間が自然と整っていきます。

光の高さや色、影の落ち方を整えることは、暮らしのリズムを整えること。大きな工事をしなくても、住まいの質は静かに変わっていきます。北欧の人々が大切にしてきた“光とともに暮らす”感覚を、私たちの暮らしにも少し取り入れてみる。それは、暮らしをやさしく変える、小さな一歩なのかもしれません。

